

第 1 回

サンドイッチを見たら思い出せ!

入門編・論説文①

文章はこう作られている

読解

目標.. 文章構造図をマスター

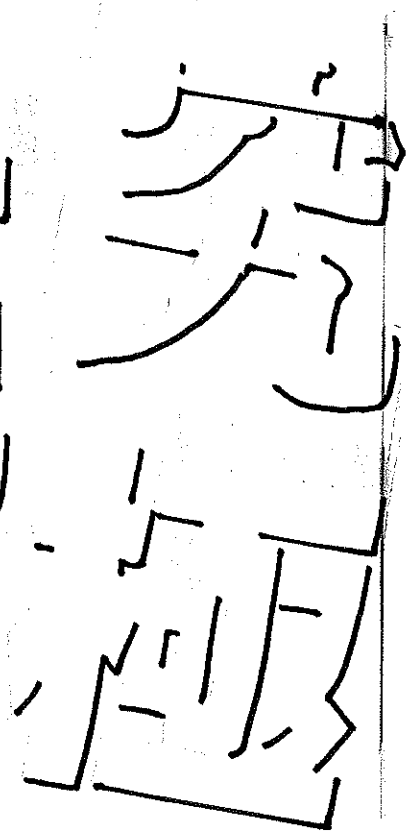
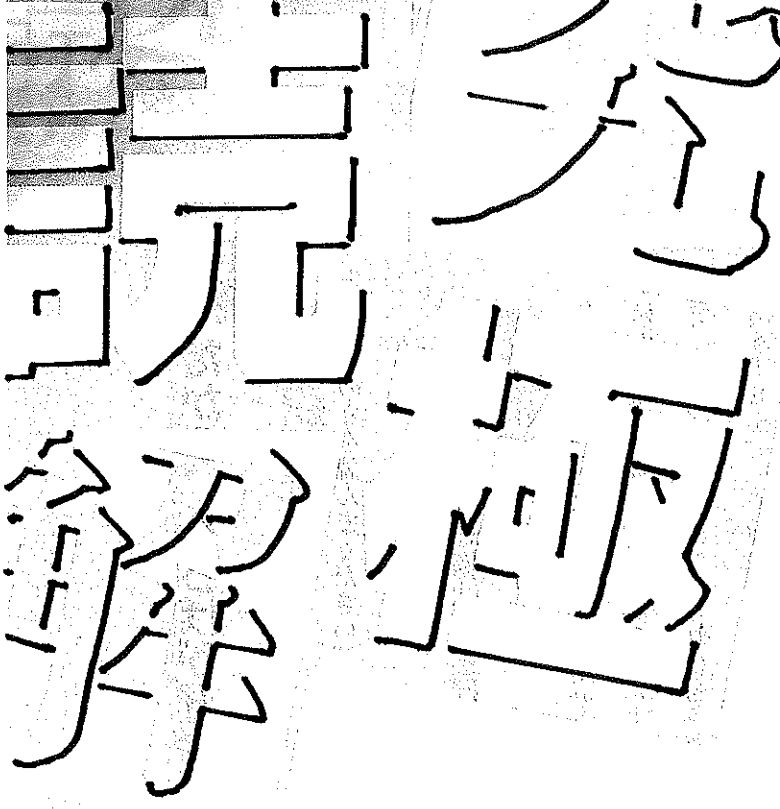
結論と具体例・抽象と具体を知る

読解：なんだかんだやねばまねだな？

どうしてもやらなきゃいけないの？

— 青森県の俵武多之助さん

んだ。





だから、くらげが好きなんだっ！

まず、この文を読んでください。

●例文1A 「好物はくらげ」

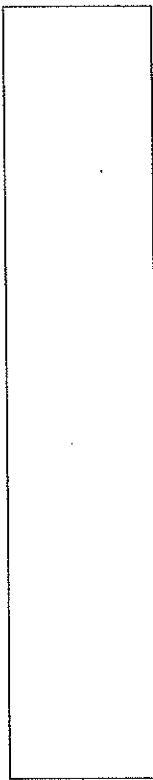
私の好物は、くらげです。

つるん、ぬるんとした舌ざわりにまずしびれます。次に、ほのかな潮の香りがのどから鼻に上がってきて楽しめます。す。のごしときたら、これはもう絶品。他に比べようもありません。

くらげ以上の美味はありません。

この文は何を主張しようとしているのでしょうか。


書いてください。



はい、解答例です。

……大体あっていましたか。

では、みなさんは、どうやってこの文章の「主張」を見つけたのでしょうか。実は、難しい入試問題も、分厚い本も、皆さんは同じように理解することができます。ただ、それらは長くて複雑な姿かたちをしているので、ちょっと見るとわかりにくいだけなのです。ではもう一度、先ほどの文で、なぜ・どのように「主張」をつかんだのか思い出してください。思い出して、次の空欄をうめてみましょう。正解かどうかにはあまりこだわらずに、文章を見直してもいいので、とにかく何か書き込んでください。

 主張をつかんだ理由

①それが文章の「 」の に

書いてあるから

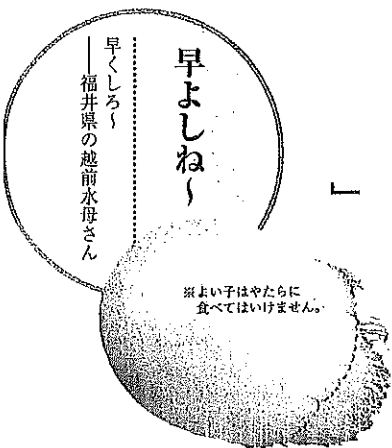
②それが文章で「 」 書かれて

いたから

③その他(あれば)「 」

から

はい、では解答例です。



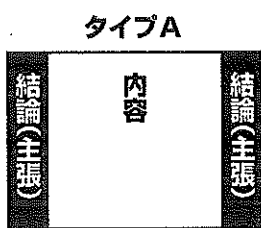
① 文章の「」のところに書いてあるから

② 文章で し書かれていたから

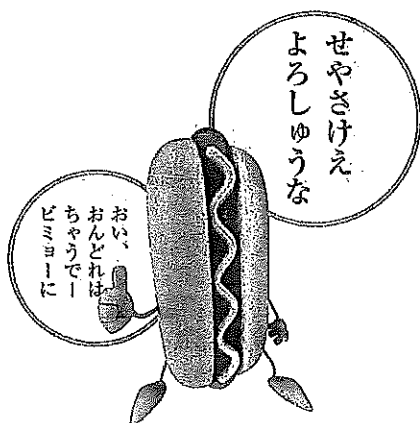
③ その他・それが最も な部分だから

どうでしたか。だいたい同じなら、言い方はちがってかまいません。「その他」は後で説明します。

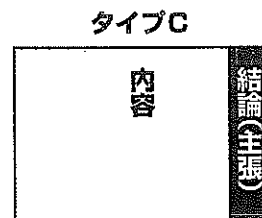
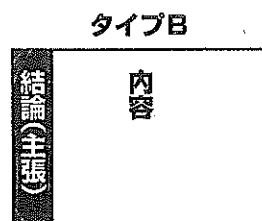
では理由①です。「結論」(結||結び・論||意見)というくらいなので、文章の大切なことは、最後におかれます。ですから、無意識のうちに「終わりの部分」に注意を向けた人がいたはずですよ。正しい読み方です。また、「はじめ」に大切なことを書いてしまう方法もよく使われます。今回の例文1Aは、最初と最後にほぼ同じ意味の主張(結論)が書かれているわけですね。サンドイッチのような形です。



では、最初と最後ではどちらがより重要だと思いますか？ 次の



どちらが多く使われるでしょう。多いほうに○をつけてください。



どうですか。やはり「最後」です。入試問題の文章も圧倒的にタイプBが多いのです。「結びの・論」だからでしょうか。これが一番自然なのです。

次に理由②について見直しましょう。

「繰り返し」し書かれている——としましたが、どこに？ この場合は最初と最後、ですね。とすると、①と同じではありませんか。わざわざ番号を変えた意味があるのか、と考えたあなたは、かなり鋭い頭脳の持ち主ですね。

最初と最後以外のサンドイッチの「具」の部分を読んでください。どうですか、くらげをほめていますか。思い切りほめていますね。そう見ると、同じことを言っている。と、すると、この文章はどこもかしこも、同じ内容をことばを変えて書いているだけ、ともいえ

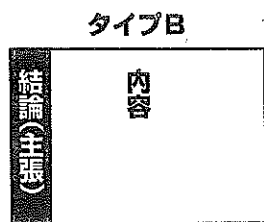
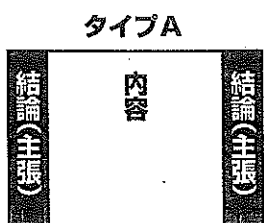
るのです。

次のようなことに気づいた人はいますか？ —— 「サンドイッチの具」の部分、「具体例」っていいませんか？

おお、鋭い。そのとおり。「くらげは最高」という主張を、具体的な例をあげて説明している、といえます。そう考えると具体例も、結論（主張）と同じことを繰り返していることがわかります。

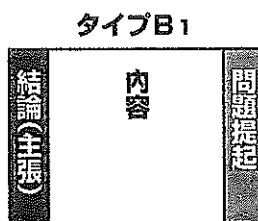
実は、高校入試や大学入試に何回も何回も使われる「説明的文章」なるもの。それからみなさんが一生でずっとずっと繰り返して読むことになるものすごい量の文章。これらは、すべて「同じ基本構造」で書かれているのです。

その「基本構造」はたったの3種類しかありません。これを入試問題にしぼると、先ほどのタイプAとB、2種類しかないのです。



先ほども書きましたが、より多いのは「タイプB」です。

もう少し詳しく説明します。入試に一番多く見られる文章の基本構造は、次のようなものです。



最初に問題提起、次に具体例による説明、最後に結論（主張）です。「くらげ」の文章をこの型に直してみます。

●例文1B 「好物はくらげ」

くらげがどんなに美味しいものか、知っている人も経験した人も少ないのではないのでしょうか。

つるん、ぬるんとした舌ざわりにまずしびれます。次に、ほのかな潮の香りがのどから鼻に上がってきて楽しませます。のどごしときたら、これはもう絶品。他に比べようもありません。

くらげ以上の美味はありません。

これで、図のとおり「問題提起」「具体的説明」「結論」というパターンになりましたね。

では、せっかくのチャンスですから、この構造をイメージしてもらい、同時に、一生使うとても大切なことばを教えます。

「抽象」

はい、左の欄に、練習のために、ていねいに書き写してください。そして、何と読むのか、読みも書いてください。

漢字	ここに読み
----	-------

読めましたか？

読み方は「ちゅうしょう」です。これは先ほどの

「具体例」の「具体」

の反対の意味のことばです（対義語）。絶対におぼえてください。実際には、次のように用いられます。

抽象的 ⇄ 具体的

なんとなくわかりますか？

わかりにくければ、次のようにイメージしてください。

具体的な文：内容が細かい・狭い・小さい・くつきりはつきり
抽象的な文：内容が大まか・広い・大きい・ぼんやり

より具体的な言語

⇄

より抽象的な言語

- | | | |
|------------|---|------|
| 鯖・鰹・鰻・鮓・鮭 | ⇄ | 魚 |
| 韓国・カナダ・ロシア | ⇄ | 国家 |
| 正方形・だ円・台形 | ⇄ | 平面図形 |
| 西高・本町中・南部小 | ⇄ | 学校 |

より具体的な文 ①

家の前の道をはさんですぐ南側、玄関から10メートル先に県立川北高校の正門がある。

⇄

より抽象的な文 ①

家の近くに学校がある。

より具体的な文 ②

くらげのぬるん、つるんとした舌ざわりは海産物では最高である。

⇄

より抽象的な文 ②

くらげは最高においしい。



わかりましたね。では、もう一度、「くらげ」の文章をどうぞ。

●例文1C

タイトル「大好物はくらげ」

問題提起

くらげがどんなに美味しいものか、知っている人も経験した人も少ないのではないだろうか。

具 thể例①

つるん、ぬるんとした舌ざわりにまずしびれます。

具 thể例②

次に、ほのかな潮の香りがのどから鼻に上がってきて楽しめます。

具 thể例③

のごとききたら、これはもう絶品。他に比べようもありません。

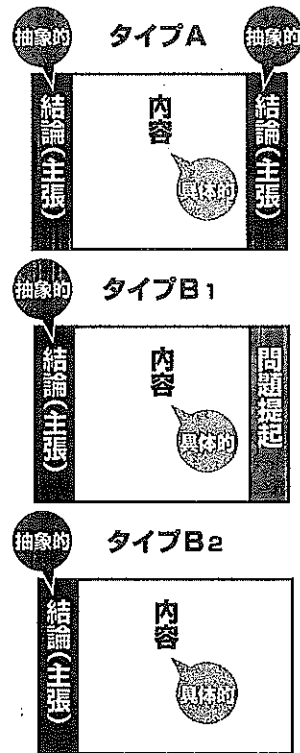
結論(主張)

くらげ以上の美味はありません。

「もうくらげはたくさん」ですか？ そうでしょうね。

では、最後にもう一度、「基本構造」をおさらいします。

みなさんが入試で読む文章のほとんどは、次の3つのどれかといつてまちがいません。



で、ついでにもう一つ。一番はじめに「タイトル」がありますね(ほとんどの入試問題では作者名とあわせて最後に書きそえてあります)。

この文章のタイトル「大好物はくらげ」は、本文のどの部分に似ていますか？

次の三つの中から「タイトル…大好物はくらげ」に一番近い内容のものを選び、○をつけましょう。

問題提起 ・ 具具体例 ・ 結論

そう、「結論」です。タイトルがどの部分に似ているかは、文章によつてこととなります。でも、タイトルを見れば、何が言いたいのか一目でわかってしまうこともあるのです。これも大切なポイントです（内容とまるで無関係なタイトルもあります。その場合は「残念でした……」ということですが）。

これで見なさんは、入試によくある「筆者の主張」に関する問題をこれまでよりずっと楽に正答できるようになりました。

2 たくあんと文化と文明の関係って？

次の例文はもう少ししませじめなものです。

●例文2A

「文化とは何だろう」

文化と文明はよく似たことばだ。しかし、よく使われるだけに区別がつきにくく、まぎらわしい。どちらがうのだからか。

ある小説家が、次のような例をあげていた。

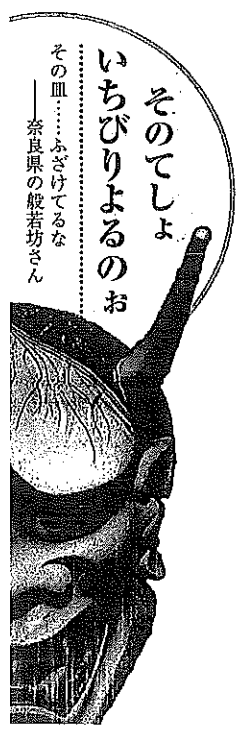
アメリカのレストランが「たくあん漬け」を作った。材料も手順も完璧。試食した日本人は「うん、おいしい。たくあんの味だ」とほめちぎった。成功である。ところが、テーブルで大失敗が起こった。たくあんが、丸い純白の皿に、まるでソーセージかハム、または果物の薄切りのように、きれいに、円形に並べられていたのだ。日本人はみんな食欲をなくしてしまったという。

このエピソードにおける「材料と手順」が文明であり、「食欲」が文化だというのである。

文明は設計図のようなもので、文字さえ通じれば、世界中どこでも通じる。たくあんを作ることができる。これは技術といってもいい。

一方の文化は、身勝手な好みのようなもので、皿や盛り付けが変わっただけで、同じ味のものを、もう食べたくなると言い出すのだ。

文明は世界中どこにでも持っていけるが、文化はその時のその場所でしか通じないもののようなのである。つまり、文化は「わがままの集合」といえるものなのだ。



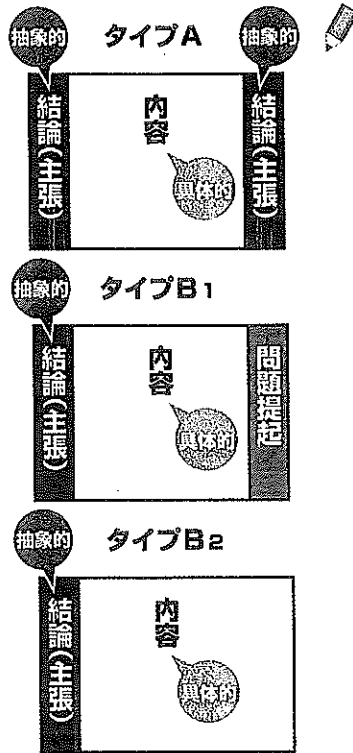
そのてしよ

いちびりよるのお

その皿……ふざけてるな

奈良県の般若坊さん

では、この文章はどのタイプでしょうか？ ○をどうぞ。



できましたか。

タイプB1ですね。構造を図にします。空欄「 」にことばを補って、完成させてください。空欄には、次のどれかが入ります。

問題提起 ・ 具体例 ・ 結論

●例文2B タイトル「文化とは何だろう」

文化と文明はよく似たことばだ。しかし、よく使われるだけに区別がつきにくく、まぎらわしい。どちらがうのだろうか。

「 」

ある小説家が、次のような例をあげていた。

アメリカのレストランが「たくあん漬け」を作った。材料も手順も完璧。試食した日本人は「うん、おいしい。たくあんのだ」とほめちぎった。成功である。ところが、テーブルで大失敗が起こった。たくあんが、丸い純白の皿に、まるでソーセージかハム、または果物の薄切りのように、きれいに、円形に並べられていたのだ。日本人はみんな食欲をなくしてしまったという。

このエピソードにおける「材料と手順」が文明であり、「食欲」が文化だというのである。

文明は設計図のようなもので、文字さえ通じれば、世界中どこでも通じる。たくあんを作ることができる。これは技術といってもいい。

一方の文化は、身勝手な好みのようなもので、皿や盛り付けが変わっただけで、同じ味のものを、もう食べたくなると言い出すのだ。

文明は世界中どこにでも持っているが、文化はその時のその場所しか通じないもののようなのである。つまり、文化は「わがままの集合」といえるものなのだ。

正解を、念のためにこちらに。

●例文200 タイトル

「文化とは何だろう」〔問題提起〕部分と同じですね

「 』

文化と文明はよく似たことばだ。しかし、よく使われるだけに区別がつきにくく、まぎらわしい。どちらがうのだろうか。

「 』

ある小説家が、次のような例をあげていた。

アメリカのレストランが「たくあん漬け」を作った。材料も手順も完璧。試食した日本人は「うん、おいしい。たくあんのだ」とほめちぎった。成功である。ところが、テーブルで大失敗が起こった。たくあんが、丸い純白の皿に、まるでソーセイジかハム、または果物の薄切りのように、きれいに、円形に並べられていたのだ。日本人はみんな食欲をなくしてしまったという。

このエピソードにおける「材料と手順」が文明であり、「食

欲」が文化だというのである。

文明は設計図のようなもので、文字さえ通じれば、世界中どこでも通じる。たくあんを作ることができる。これは技術といってもいい。

一方の文化は、身勝手な好みのようなもので、皿や盛り付けが変わっただけで、同じ味のことを、もう食べたくなーいと言いつ出すのだ。

「 』

文明は世界中どこにでも持っていけるが、文化はその時のその場所でしか通じないものようである。つまり、文化は「わがままの集合」といえるものなのだ。

復習です。最後の結論の部分ですが、抽象的な感じがしますか。しますね。これだけ読むと、何を言っているのかよくわかりません。そして、この最後の部分が「結論（主張）」だ、と断言できるも一つ大きな証拠がここで現れました。それは三字の単語です。書いてください。



「 』

書けましたか？

です。

「つまる(詰まる)」「とは、もともとおしまいになる・終わるとい
う意味です。これはとても強力な語です。その後にもものすごく重要
なことが確実に書かれています。見つけたら、すぐにぐいつ、とマー
クしてください。

同じような「結論」に結びつきそうなことは書いておきます。
要注意ということですよ。

つまり・つまるどころ・要は・結局・まとめると……どれも、文
章中でみつけたら、すぐにマークしてください。

では、次に、この文章での作者の主張がどのようなものなのか。
もう一度たしかめます。

作者の主張といえる、一番大切な一文の、はじめの五文字を書き
抜いてください。なお、句読点は字数に数えること。



書けましたか？

できましたね。正解は

です。

では、第1回はここまで。しつこいようですが、この図をちゃん
と頭に入れておいてくださいね。

